

ＪＳＣが作成した事故防止資料の活用事例について ～（福岡県）筑紫地区小中学校養護教諭研究会 第2回夏期研修会～

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「ＪＳＣ」という。）では、ウェブサイト『災害共済給付Web』※1で、学校等の事故防止に関する情報を提供しています。

また、ＪＳＣが作成した事故防止資料等の活用方法を例示することで、学校等における事故防止資料等の活用促進を図ることとしています。

この度は、筑紫地区小中学校養護教諭研究会が開催する第2回夏期研修会の様子を取材させていただきましたので、その様子を紹介します。

研修会では、スポーツ事故防止ハンドブック、スポーツ事故対応ハンドブック※2など、ＪＳＣが作成した事故防止資料を活用いただきました。

【研修会の概要】

本研修会は、福岡県の筑紫地区（福岡市の南に近接する筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市で構成される地区）にある小中学校の養護教諭と管理職約70名が参加し、養護教諭が行うスポーツ外傷の救急処置をテーマにした講話を含む内容で実施されました。

【ＪＳＣの資料を活用いただいたきっかけは？】

研修会の講話について、講師を務められたのは、福岡大学医学部看護学科 小柳康子教授です。

小柳教授は、ＪＳＣが作成する「学校の管理下の災害〔令和2年版〕」の“幼稚園・幼保連携型認定こども園、保育所等における事故防止の留意点”を御執筆いただいたこともあります。

小柳教授から、ＪＳＣの資料を活用いただき、きっかけを伺いました。

「ＪＳＣの作成する事故防止資料は、とてもまとまっていて、分かりやすいと思います。」

「今回のテーマである“養護教諭が行うスポーツ外傷の救急処置”について、説明しようと考えたときに、ＪＳＣが作成するスポーツ事故対応ハンドブックに掲載のある、フローチャートが分かりやすく、受講者のためになると思い、活用することとしました。」

「また、資料が学校現場で十分に活用されるようになれば良いとも考えています。」



〔養護教諭が行うスポーツ外傷の救急処置〕

養護教諭の方々は、学校で事故があった際に、救急処置を行うわけですが、その処置を行うに当たって、養護教諭が行うこととして、フィジカルアセスメントが大切とのこと。

フィジカルアセスメントは、問診・視診・触診などを通して、子どもの情報を収集し、その子どもに必要とされる対応を考察することです。

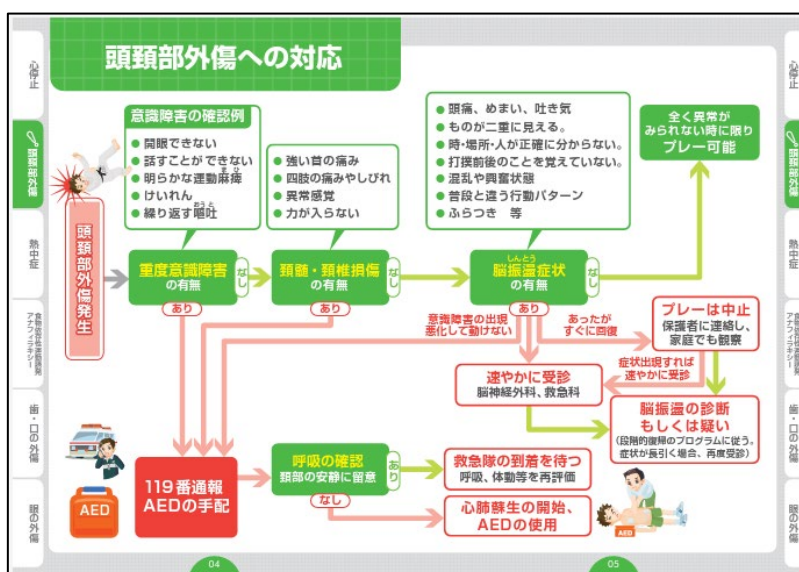
養護教諭が行うフィジカルアセスメントは医療現場とは異なるものですが、その必要性について注目されているとのこと。

研修では、JSCの事件事例を基に、グループワークを行い、事例ごとのフィジカルアセスメントに必要なことが話し合われました。

また、研修の中で、小柳教授から、頭頸部外傷への対応について、スポーツ事故防止対応ハンドブックに掲載のある、『頭頸部外傷への対応』フローチャートが、子どもの状況を確認（アセスメント）するのに役立つとお話しいただいております。



『頭頸部外傷への対応』フローチャートには、頭頸部外傷の発生から重度意識障害の有無、頸髄・頸椎損傷の有無、脳振盪症状の有無の確認など、発生から処置までの流れをまとめています。



【最後に】

J S Cでは、今回のように、J S Cの事故防止資料を御活用いただいている様子を紹介していきたいと考えております。

研修会等で、御活用いただく機会があれば、取材させていただきたいと考えておりますので、J S C（福岡支所）まで御連絡ください。

活用いただいている様子を紹介することで、J S Cの事故防止資料のさらに活用が広がり、学校等における事故防止の取組に資することが出来ればと考えております。

また、教育委員会等で実施される研修等で「J S C職員から学校事故防止に関する話しをしてもらいたい」等のご要望がございましたら、合わせて、福岡支所までお問い合わせ願います。

J S Cからの講師派遣にあたって、旅費・謝金等は不要です。

リモート研修も対応可能ですので、是非よろしく申し上げます。

<参考資料>

※1 [災害共済給付Web](#)

※2 [スポーツ事故防止ハンドブック、スポーツ事故対応ハンドブック](#)